

私のロータリー史 Ⅲ

クラブ拡大

1997年に芦屋RCの年末懇親会で大量の食中毒が起こって、その後、その処理を巡って、クラブを二分する大騒動が起こりました。詳細は避けませんが若手の退会者が続出しました。私は1998年に会長に就任しましたがその雰囲気は払拭することはできませんでした。退会者は口をそろえて、「ロータリーにはいたい、現在のクラブは嫌だ」と語りました。

私も退会したいと考えていましたが、これを機会に新しいクラブを作ること考えました。同じ考えを示していた、寺内嘉一氏や村岡健三氏と相談しながら、退会者を含む新しい会員を集めました。

ガバナーから私が特別代表に委嘱されて、親クラブである芦屋クラブとの交渉に当たりました。当時は今と違って、親クラブの了承がなければ拡大はできませんでした。何回にもわたる交渉の結果、芦屋クラブからの移籍は5人以下、私も新クラブに移籍することで、賛同を得ることができました。

会員募集は思っていたよりも容易に進みました。芦屋クラブが上場会社を中心に大企業の経営者を集めていたので、新クラブは芦屋とその近辺に事業所を持つ人を中心にしてリクルートしました。画家、音楽家も入会しました。芦屋にはいろいろな職業人が集まっていると感じました。クラブ名はあえて東西南北を避けて、「芦屋川」としました。

結果的に46人が集まり、創立総会後に私が芦屋川ロータリーに移籍することで47名になりました。拡大を期待していた、大石神社の宮司である飯尾ガバナーは忠臣蔵の47士であると大いに満足しておられました。

阪神大震災に際しては、例会場であったホテル竹園は損壊しましたが、その場に集まってコップをたたいて点鐘として、例会を開催しました。週報も会員がパソコンで作って発行しました。

会員増強も順調に進んで、親クラブを抜いて、60名近くまで増えました。

1996年に私がガバナーに就任した際には、全会員が役割分担して私を支えてくれました。

2000年以降、私に地区大会やセミナーの講演依頼が殺到しました。日曜日の会合では、夜の懇親会があり、その際の質疑応答のため深夜になるケースが多く、その際は月曜日帰省となり、遠方では、芦屋川クラブの月曜日の例会には間に合わない場合が多出しました。

私は私のペースで、それに対応して、ロータリーライフを楽しんでいましたが、クラブからクレームが来ました。それはクラブ例会の出席率が悪いということでした。私は「パスト・ガバナーにはロータリーの奉仕理念を広める責任がある。日本全国や台湾、韓国まで行って講演して、その際、芦屋川ロータリークラブの名前を広めていると反論しましたが、私が「ロータリー研究会」を通じて初期に教えた、「例会出席が再重要」を主張するクラブ理事会と対立する事態となりました。

私はいわゆる、80オールドを申請しましたが、それも否決されました。ロータリーの退会を考えましたが、数多くの講演依頼があり、源流の会のこともあって、ロータリーを辞めるわけにはいきません。30年間連続出席を続けてきましたし、出席率は十分あります。2004年の11月、明日は広島でロータリー研究会で規定審議会に関する講演をするという日に心筋梗塞で倒れて、緊急入院しました。何とか命を取りとめて、クラブに80オールドによる出席免除を申請しましたが、再度、否決されました。

退院間近に尼崎西クラブに属する石井良昌君が見舞いに来たので、クラブ移籍のお願いをしたところ、クラブ理事会は快く受理してくれました。出席免除に、その後、さらに、新しい会員分類ではシニア会員として会費も減免されたので、現在は何のプレッシャーもなく、広域的、対外的ロータリー活動に専念することができるようになりました。

ウェブサイト

留学生のためのソフトウェア会社を設立しましたが、阪神大震災で消滅したことは既に述べたとおりです。シールドンの奉仕理念は私の個人的なウェブサイトである「ロータリーの源流」を通じて情報発信をしていました。

1999年11月、東京で開催されたロータリー研究会で、ITについて話してほしいという依頼がありました。私のウェブサイトを見ていたロータリアンからの要請でした。..

「ロータリーとIT」という表題で今後のロータリーライフはITが必須になるという話を40分ほどしました。冒頭、「日常の通信手段としてメールかインターネットを使っている人は挙手してください」と質問したところ、挙手した人は参加者500人中10人ほどでした。

その日の夜、ロータリー研究会のために来日した次期RI会長フランク・デプリンの部屋に呼ばれて、日本のロータリーのIT化のために努力してほしいといわれ、日本全体のウェブサイトを統括するウェブ・マスターにインターネット責任者に任命されました。デプリン会長エレクトは自分の年度には全てはメールとインターネットを経由して発信すると語りました。

日本ロータリーのIT化の作業が始まりました。パスト・ガバナーのほとんどはITにうとかったので、誰も異論はなく、ことはスムーズに進みました。ガバナー会は2640地区の成川ガバナーがまとめてくれました。

私の個人的なサイト「源流の会」のコンテンツを中心にしてロータリー・ジャパン・ウェブRJWという・サイトを開設して、そこからRIの情報を流すことにしました。その情報を受け取るため、地区とクラブに情報伝達委員DICO、CICOを任命しました。

RIから毎日のようにメールで情報が送られてきました。私が取捨選択の上、翻訳してまとめ、それを横山義文氏(東京北)がhtml化し、中島閏一氏(佐世保北)がそれをウェブ上のあげてサイトを管理しました。その後、ポートルンド近郊で分区代理を務めた東昭一氏(宝塚武庫川)が翻訳を引き受けてくれるようになって、私の負担は軽減しました。管理費のみがガバナー会から支給され、全員無償のボランティアでRJWは運営されました。

次年度のキング会長もRJWを使って情報伝達を行い、その後も、その慣習が続きました。

4年後に、思わぬところから、クレームが入りました。RI事務局の職員が情報伝達という仕事を失って危機感を感じたのが発端でした。

従来はRIのすべての情報はRI日本事務局を経由してガバナーに伝えられていました。それがすべてRJWを経由してインターネットとメールによって即日、情報が伝達されるので、日本事務局の存在に危機感を感じたわけです。

そこで日本支局の片岡暎子氏とロータリーの友の二神典子氏がRI理事の〇〇氏にRWJを廃止してその役割を日本支局とロータリーの友に移すよう頼んだというのが真相のようです。

どのような経緯があったかは分かりませんが、ガバナー会が突然、管理費の支払いを停止して、RJWの解散を要求してきました。全員ボランティアで管理していましたから、この措置には驚きました。一部の委員にはかなりの額のご苦労料(裏金)が払われたと聞いていますが、私を始め中枢の委員にはなにも支払われませんでした。もし、支払われても、受け取らなかったと思います。

RJWのドメインを強制的に奪って、ロータリーの友がインターネットのホームページを開設しましたが、そのコンテンツはRIから伝えられる情報のみで、会員が欲していた奉仕理念に関連した情報や古典的文献のアーカイブスは皆無になりました。

源流の会

ガバナー会を含む日本のロータリアンがすべてRJWを通じて情報を得ているのに、事務局員と理事によって、

日本のロータリーの IT 化が妨害されたことを腹立たしく感じました。しかし、IT に疎いほとんどのパストガバナーはこの事件に無関心でした。

しかし、数多くのロータリアンからウェブサイトを開いてほしいというメールが殺到しました。そこで私のウェブサイト「ロータリーの源流」のコンテンツを中心に、以前から好評だった「炉辺談話」を充実したホームページを作って、「源流の会」を発足しました。

RI の本部と交渉して、The Rotarian 誌のバック・ナンバーと国際大会議事録のすべてを入手することに成功しました。ロータリーの友もガバナー月信も創刊時から現在までのほとんど全部が揃いました。シェルドンの著作を始め、ロータリー創世記の文献のほとんど全部が揃っており、世界一のコレクションだと自我自賛しています。

私が集めた古い文献が中心のアーカイブスですが、最近の著作も収録しています。新しい文献については著作権の問題が発生することを恐れて、パスワードで保護して、2000 円の年会費を設けて、このアーカイブスを会員のみが閲覧できるようにしています。

浅田進氏(本庄南)小山楯夫氏(新潟)が庶務会計を、中島閨一氏(佐世保北)がウェブサイトの管理を行い、約 20 名のパストガバナーが顧問に就任し、約 300 名の会員を擁し、一日平均 100 名から 200 名が閲覧し、現在までのアクセス数 56 万 5 千回、コンテンツは画像を含めて約 3 万 5 千ファイルという日本ロータリー最大のウェブサイトになりました

私からの短いロータリー情報の発信は「炉辺談話」によって随時掲載しています。古いものは年度別の合本として収めていますが、全部で 563 回に達しました。

会員からの投稿は「ロータリーの広場」に収録しています。規定審議会の結果や COVID19 関連の資料、ZOOM によるセミナーは直接アクセスできるようにしてあります。過去の ZOOM によるセミナーはすべて動画として閲覧可能です。古い文献類、シェルドンの文献、ポールハリスや創立当時の古い会員の著書、現代の会員の著書、ロータリーに関連した画像など 3 万件を超えるアイテムは「アーカイブス」に収録されています。アーカイブスに入るためには ID とパスワードが必要になります。ID とパスワードは新年度の 8 月頃に全会員にお知らせします。是非、ご活用ください。

新型コロナウイルス COVID19 によってクラブ例会が中止になりました。そこで源流の会では毎月第 1 木曜日はテーマを定めたフォーラム、第 3 木曜日は講師によるセミナーと質疑応答を行っています。セミナー終了後の懇談会にも数多くの会員が参加して、ロータリー談義を楽しんでいます。

私自身は 2006 年から脊椎管狭窄のため車椅子の生活をしています。クラブの好意からシニア会員として出席免除になっていますが、最近の私にとっては、源流の会のズーム・セミナーが例会の代わりになっています。幸いなことに私は留学生の援助を通じて IT に堪能となりました。国際奉仕によって得たプロフィットだと感謝しています。